

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

No.23 [2004 / 2005 No.2]

JCRS
Japanese Coral Reef
Society

日本サンゴ礁学会ニュースレター

contents

page

日本サンゴ礁学会第7回大会および
公開シンポジウムのご案内

2-5

訃報：名誉会員 平田国雄先生
ご逝去のお知らせ

5

連載：若手会員の眼 -18-

6

会 告

2004/2005年度総会の開催について

日本サンゴ礁学会2004/2005年度総会を、
下記の通り開催いたします。会員の皆様はご出席下さい。

今回は、本年6月28日～7月2日に本学会の主催によって開催した第10回国際サンゴ礁シンポジウムの報告があります。また、これまで本学会が事務の一部を委託していた学会事務センターが破産し、本学会も200万円近い被害を受けました。その経過報告と今後の対応についてもご報告いたしますので、審議をお願いいたします。

会員の皆様には、今回の重要な総会にご出席下さいますようお願いいたします。

なお、総会に出席できない方は、本ニュースレターに同封した委任状にご記名・捺印の上、郵送またはファックスで事務局まで11月11日までに送られるか、出席する会員に託して当日事務局の手元に届くようにして下さい。

日本サンゴ礁学会会長 山里 清

2004年11月13日

16時30分～17時30分

国土館大学世田谷キャンパス多目的ホール

【議 事】

2003/2004年度会計報告、監査結果報告、
2004/2005年度予算計画
学会事務センター破産の経過・本学会の被害と今後の対応
第10回国際サンゴ礁シンポジウム開催報告
企画、学会誌、広報、選挙、保全、安全
各委員会報告・活動計画

即決

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大・理・地球惑星 茅根 創
ファックス 03-3814-6358



第7回大会 および 公開シンポジウム

のご案内

2004年11月11日(木) ~ 11月14日(日)

国土館大学世田谷キャンパス 多目的ホール他
東京都世田谷区世田谷4-28-1

大会情報 日本サンゴ礁学会: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcrs/>

日本サンゴ礁第7回大会を
2004年11月11日(木)~11月14日(日)
に国土館大学で開催いたします。
今年はICRSが開催されましたが、
この大会でも多数の発表が集まりました。
皆様のお越しをお待ちしています。

大会実行委員長 長谷川 均

■ スケジュール ■

- 11月11日(木)
15:00~18:00 . . . 評議員会 (柴田会館3F)
- 11月12日(金)
12:00~13:00 . . . 受 付
13:00~18:00 . . . 口頭発表
- 11月13日(土)
09:30~11:30 . . . ポスター発表
11:30~12:30 . . . 保全委員会 (5号館2F 大会議室)
12:40~16:00 . . . 口頭発表
16:30~17:30 . . . 総会&ポスター賞受賞発表
18:00~20:30 . . . 懇親会 (1号館)
- 11月14日(日)
09:00~12:30 . . . 口頭発表
13:30~16:30 . . . 公開シンポジウム

- 13:40-14:05 「ゆりむん」の世界観を考える
堀 信行 (東京都立大学)
 - 14:05-14:30 裾礁、海と陸のはざまの生活世界
渡久地 健 ((財)沖縄協会)
 - 14:30-14:55 生物学的観察者の見たサンゴ礁の世界観
中野義勝 (琉球大学)
 - 14:55-15:20 南太平洋に最初に居住した人々
近森 正 (平成帝京大学)
 - 15:20-15:30 休 憩
 - 15:30-16:30 パネルディスカッション
堀 信行・渡久地 健・中野義勝・近森 正
- 司 会: 中井達郎 (国土館大学)

■ 昼食について ■

11月14日(日)は、大学の食堂、ハンバーガーショップは閉店しており、会場周辺の食堂も限られております。会場受付で周辺の食堂マップを用意致しますが、前もってこれらの点をお含み置き下さい。なお、大学の近隣にはコンビニや弁当屋があります。会員控室も会場近くに用意します。

■ 会場へのアクセス ■

- 1) 東急世田谷線「松陰神社前駅」下車、徒歩6分。
世田谷区役所の隣です。
渋谷方面から：新玉川線「三軒茶屋駅」で東急世田谷線に乗り換え、20分で「松陰神社前駅」です。
新宿方面から：小田急線「豪徳寺駅」下車、徒歩1分の「山下駅」で東急世田谷線に乗り換え、約40分で「松陰神社前」です。
- 2) 小田急線「梅ヶ丘駅」下車、徒歩15分。
梅ヶ丘駅下車の場合、初めての人には道がわかりにくいので、できれば上記1のルートをおすすめします。
- 3) 羽田空港駅から
渋谷駅、三軒茶屋駅経由で松陰神社前駅まで約1時間10分。

会場周辺案内 (<http://www.kokushikan.ac.jp/kouhou/campusinfo/setagaya/>)

■ 公開シンポジウム ■

「サンゴ礁世界の協調
~時間を越えた人との交わり~」

- 日 時：11月14日(日) 13:30~16:30
- 会 場：国土館大学世田谷キャンパス 多目的ホール

13:30-13:40 シンポジウムの趣旨説明
長谷川 均 (国土館大学)



大会 PROGRAM プログラム

口頭発表

11月12日(金)

[座長:佐藤崇範((株)関西総合環境センター/東京都立大・院)]

13:00 101 ○茅根 創(東京大・理・地球惑星科学)
琉球列島のサンゴ礁地形分類とその用語**13:20 102** ○堀 信行(都立大・理・地理)
周辺域のサンゴ礁地形はどのように消滅するか-礁斜面勾配からの一考察-**13:40 103** ○中森 亨・中村隆志・増渕靖(東北大・理)
サンゴ礁における堆積作用と反堆積作用**14:00 104** 岩瀬文人・中地シュウ(黒潮生物研究所)・○中林孝之・小野正順(東京久栄)
高知県土佐清水市竜串湾における自然再生事業について~平成13年度水害の濁り拡散及び堆積土砂の移動~**14:20 105** ○中地シュウ・岩瀬 文人(黒潮生物研究所)
高知県土佐清水市竜串湾における自然再生事業について

<<< 休憩 14:40-14:50 >>>

[座長:高橋啓介(環境省自然環境局)]

14:50 106 二宮早由子・○岩下 勉・増本 貴士・倉橋 俊介(東京久栄)・中野義勝(琉球大・熱生研)
沖縄地方における海草藻場の造成手法の検討**15:10 107** 小谷和彦(沖縄環境調査株式会社)
沖縄本島東海岸域におけるサンゴ礁群落の再生**15:30 108** 藤原秀一(国土環境(株))
石西礁湖におけるサンゴ群集の被度、多様度と食痕の関係**15:50 109** 中谷誠治(亜熱帯総合研究所)
東チモールのサンゴ礁資源利用と管理体制の構築に向けた支援のあり方**16:10 110** 鹿熊信一郎(亜熱帯総合研究所)
モーリシャスにおける沿岸資源管理の課題と対策

<<< 休憩 16:30-16:40 >>>

[座長:日比野浩平((財)自然環境研究センター)]

16:40 111 高橋啓介(環境省自然環境局自然環境計画課)
日本のサンゴ礁域における海中公園制度**17:00 112** ○宮本育昌・安部真理子・土川仁(コーラル・ネットワーク)
リーフチェックの紹介**17:20 113** 谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)
阿嘉島周辺のサンゴ被度の変化と地元住民による保全活動**17:40 114** 入川 暁之(琉球大・院・理)
沖縄県恩納村における造礁サンゴ群集再生活動の報告

11月13日(土)

[座長:中村 崇(琉球大・遺伝子実験センター)]

12:40 201 ○服部昭尚(滋賀大・教育)・小林 都(石垣市在住)
礁池の景観構造と魚類の生息地のフラクタル次元:拡大空中写真の画像解析を応用した潜水調査の試み**13:00 202** ○Maria Cecilia D. Rubio・Enrico C. Paringit・瀬岡 和夫(東工大・情報理工)
Determination of temporal vegetation cover change pattern using

remote sensing images from multi-platform sensors for effective coastal ecosystem management: a case of Todoroki watershed, Ishigaki

13:20 203 ○David K Idip Jr(Univ. of Tokyo)・Yimnag Golbuu・Lolita Penland・Steven Victor (Palau International Coral Reef Center)・Hajime Kayanne (Univ. of Tokyo)・Hiroya Yamano (National Institute for Environmental Studies)・Maiko Matsuda・Hiroshi Hanaizumi (Hosei Univ.)
Monitoring and Classification of Palauan Reefs**13:40 204** ○飯塚広泰(東工大・情報理工)・田村 仁(日本学術振興会特別研究員)・瀬岡和夫・Maria Cecilia D. Rubio((東工大・情報理工)・Miguel D. Fortes・Rochelle L. Balitaan・Randell E. Villanueva(Marine Science Institute Univ. of the Philippines)
フィリピン・ミンドロ島プエルトガララにおける海水流動と水質環境特性について**14:00 205** ○鈴木庸吉(東工大)・宮澤泰正(海洋研究開発機構)・瀬岡和夫(東工大)
多重ネスティング海水流動モデルによる沖縄本島西方海域流動場の数値解析

<<< 休憩 14:20-14:30 >>>

[座長:谷口 洋基(阿嘉島臨海研究所)]

14:30 206 ○田村仁・瀬岡和夫・熊谷航(東工大・情報理工)
数値シミュレーションに基づく石垣島白保海域における流動・温熱環境特性の解明**14:50 207** ○Yoshimi Suzuki(Shizuoka Univ.)・Loic Charpy(IRD)・Beatriz Casareto(LASC)・Jean BLancholt(IRD)・Yoshio Ishikawa(Shizuoka Univ.)
Linkage between organic matters, nutrients and pico, nano plankton in coral reef in la Reunion**15:10 208** ○中村 崇・山崎 秀雄(琉球大・遺伝子実験センター)
Flow as an essential factor for corals during high temperature period**15:30 209** 鳥海大輔・廣瀬慎美子・○日高道雄(琉球大・理・海洋自然)
サカサクラゲ-褐虫藻共生系を用いた白化機構の解析**15:50 210** ○安田仁奈(東工大)・浜口昌巳・佐々木美穂(瀬戸内水研)・岡地賢((有)コーラルクエスト)・佐波 征機(松阪市在住)・瀬岡和夫・波利井佐紀(東工大)
オニヒトデのミトコンドリア全長解析とその応用

11月14日(日)

[座長:林原 毅(西海区水研石垣)]

9:00 301 花城盛三・○貝志良太(沖縄総合事務局開発建設部)・高橋由浩((財)港湾空間高度化環境研究センター)・山本秀一・田村圭一(株式会社エコー)
港湾におけるサンゴ移植技術**9:20 302** ○柴田早苗・綿貫 啓・青田 徹・口ノ町誠・廣瀬紀一((株)テトラ)・谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)
防波堤直立壁の表面形状が与えるサンゴの着生効果**9:40 303** ○二宮早由子・倉橋俊介((株)東京久栄)・権田泰之(木曾興業(株))・安藤康久((株)アコーセラミック)
リサイクルガラスを用いたサンゴ幼生の定着基材について

[座長:中地 シュウ(黒潮生物研究所)]

10:00 304 ○林原 毅(西海区水研石垣)・鈴木 豪(京大)・服田昌之(お茶大)・岩尾研二・谷口洋基・大森 信(阿嘉島臨海研究所)・清水弘文(中央水研)・玉城泉也・伏屋玲子・加藤雅也(西海区水研石垣)
有性生殖を利用した造礁サンゴ群集の大規模修復技術の開発 3.幼生放流による加入促進効果を検証する野外実験**10:20 305** ○服田昌之(お茶大・湾岸セ)・堀越彩香・佐々木千枝(お茶大・理・生)
ミドリイシの着生変態を左右するバクテリア相**10:40 306** ○鈴木豪(京大・院・農)・林原毅・玉城泉也・伏屋玲子・加藤雅也(西海区水研石垣)・清水弘文(中央水研)・林勇夫(京大・院・農)

異なる水深帯で形成された付着生物相はミドリイシ属サンゴ幼生に対して種特異的な着生誘因効果を持つか？

<<< 休憩 11:00-11:10 >>>

[座長:鈴木 倫太郎(駒澤大・応用地理研)]

11:10 307 ○佐藤崇範((株)関西総合環境センター/東京都立大・院) 石垣島・沖縄本島におけるミドリイシ群体の分布パターン

11:30 308 ○杉原薫(福岡大・理)・山野博哉(国立環境研)・今福太郎(福岡大・理) 長崎県の造礁サンゴ群集

11:50 309 ○名島弥生(慶応義塾大・院)・石村智(京大・院)・北條芳隆(東海大・文)・河野裕美(東海大・沖縄地域研究センター)・上野信平(東海大・海洋) 西表島近世網取地区における貝類資源利用

12:10 310 ○目崎 茂和(南山大)・渡久地 健((財)沖縄協会) 日本のサンゴ礁測量・略史

ポスター発表

11月13日(土) 9:30~10:10

A-1 ○藤田和彦(琉球大・理・物質地球科学) 日本列島海域における大型有孔虫の地理的分布 - 特に分布北限について -

A-2 ○舟越善隆((株)東海アクアノーツ)・上野信平(東海大・海洋) 駿河湾のエダミドリイシ群集におけるタコノマクラの役割

A-3 ○橋本和正・加藤雅也・澁野拓郎・阿部寧・高田宜武(西海水研石垣)・上野光弘((財)自然環境研究センター) ミトコンドリアDNAを用いたオニヒトデの集団遺伝学的解析:石西礁湖の大発生群に見られる多型性

A-4 ○西川昭・酒井一彦(琉球大・熱生研)・Kinzie III, R. A.(ハワイ大) ハワイ諸島オアフ島カネオヘ湾の*Montipora capitata*の破片化

A-5 ○萩原隼人・阿部真理子(琉球大・院・理工・海洋自然)・日高道雄(琉球大・理・海洋自然) アザミサンゴ*Galaxea fascicularis*の色彩型と蛍光タンパク質に関する研究

A-6 ○樋口富彦・城間和代・藤村弘行・新垣雄光・大森保(琉球大・理・海洋自然) 連続流水混合実験システムを用いたサンゴの長期飼育

A-7 ○北田幸男(東北大・連携大学院)・川幡穂高(東北大・院・理・産総研)・鈴木淳(産総研)・大森保(琉球大・理・海洋自然) 液体クロマトグラフィー/タンデム型質量分析法(LC-MS-MS)による沖縄本島河川中のノニルフェノール(NP)とビスフェノールA(BPA)の環境動態の解明

A-8 ○羽川貴弘・黒沢勝彦・鈴木款(静岡大・理) 石垣島吹通川河口のマングローブ域における窒素化合物の動態

A-9 茅根 創・飯嶋寛子・○中村修子・真岩一幸(東京大・理・地球惑星科学) ケニヤのサンゴ年輪の酸素同位体比・蛍光分析結果と降水・河川流量変動

A-10 ○菅 浩伸(岡山大)・中島洋典(有明高専)・野中正法(美ら海水族館)・吉水剛志(岡山大・院) 沖縄島本部半島・美ら海水族館沖における現成サンゴ礁の形成過程

A-11 ○嘉藤徹・加藤健・根岸明・大谷謙仁・飯村葉子・野崎健(産総研)・茅根創(東京大) サンゴ礁島嶼社会のための新エネルギーシステム

A-12 ○池田穰((株)間組)・千村次生(中央開発(株))・仲地昭人(極東建設(株)) 水中不分離性コンクリート上へのサンゴ等群体の移築

A-13 中井達郎(国士舘大・非) 空中写真判読による生態系の空間構造の把握 - 辺野古サンゴ礁、白保サンゴ礁等を例に -

11月13日(土) 10:10~10:50

B-1 岩尾研二(阿嘉島臨海研究所) 海草上に生息するホソガヤ科の一種(ヒドロ虫綱)の生態

B-2 ○安田仁奈(東工大)・上野光弘(環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター)・小笠原敬((財)沖縄県環境科学センター)・興克樹(奄美海洋展示館)・梶原健次(平良市栽培漁業センター)・谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)・岡地賢((有)コーラルクエスト)・灘岡和夫・波利井佐紀(東工大)・鹿熊信一郎(亜熱帯総研) 生殖腺観察による琉球列島5海域におけるオニヒトデ産卵期の推定

B-3 ○野澤洋耕(九州大・天草臨海実験所) Community structure and 3-year dynamics of a high-latitude coral community, Amakusa, southwestern Japan

B-4 ○渡邊俊樹・頼信実・湯山育子・尾崎紀昭・早川英毅(東大・海洋研)・紀井晋一・田中次郎(東京海洋大)・岩尾研二(阿嘉島臨海研究所)・丸山正(海洋研究開発機構) 褐虫藻共生の分子機構研究のためのモデル系の確立

B-5 ○山本広美・野中正法・A. H. Baird(美ら海水族館) Coral spawning at the Okinawa Churaumi Aquarium

B-6 ○鈴木豪(京大・院・農)・林原毅・玉城泉也・伏屋玲子(西海区水研石垣)・加藤雅也(西海区水研石垣)・林勇夫(京大・院・農) 循環水槽におけるミドリイシ属サンゴ幼生の着生実験-流れの速さはどう影響するか？

B-7 ○向哲嗣(東海大・海洋学研究科)・上野信平(東海大・海洋) 西表島浦内湾におけるサンゴ群集の多様性と類似性

B-8 ○福岡雅史(東海大・海洋学研究科)・上野信平(東海大・海洋) 西表島浦内川河口域マングローブにおけるシレンシジミの生態分布

B-9 ○井上麻夕里(東北大・院・理)・野原昌人(産総研)・鈴木 淳(産総研)・川幡穂高(東北大・院・理・産総研) 海洋環境の指標となるサンゴ骨格中の微量元素

B-10 ○青田 徹・綿貫 啓・柴田早苗((株)テトラ)・熊谷 航・灘岡和夫・三井 順(東工大)・岩尾研二・谷口洋基・大森 信(阿嘉島臨海研究所) サンゴ礁形成に与える流動環境の影響

B-11 ○日比野浩平((財)自然環境研究センター)・高橋啓介(環境省自然環境局) 日本のサンゴ礁国際協力

B-12 ○綿貫 啓・青田 徹・柴田早苗・高橋幹夫・長田紀晃((株)テトラ) 消波ブロックの表面形状が与えるサンゴの着生効果

B-13 ○長谷川 均(国士舘大)・渡久地 健((財)沖縄協会) 琉球諸島における大正期以降の土地利用の変化 -GISを使った復元と解析を中心として-

11月13日(土) 10:50~11:30

C-1 ○磯村尚子(お茶大・院・人間文化)・服田昌之(お茶大・湾岸生物センター) シライトイソギンチャク類似3種の分類学的再検討

C-2 ○横井 謙典((有)ちむちゅらさ ブルートライ)・小菅 恵雄・小菅陽子((株)アイシーテル) 稚オニヒトデのソフトコーラル食について

C-3 ○石津直美・杉原薫(福岡大・理) 白保礁原における*Goniastrea aspera*群集のサイズ分布とその遷移

C-4 ○James D. Reimer・Kiyotaka Takishita (Extremobiosphere Research Center, JAMSTEC)・Shusuke Ono (Miyakonojo Higashi High School)・Junzo Tsukahara (Faculty of Science, Kagoshima Univ.)・Tadashi Maruyama (Extremobiosphere Research Center, JAMSTEC) Intercolony and Latitudinal ITS Sequence Variation in the Endosymbiotic Dinoflagellate Genus *Symbiodinium* (Dinophyceae) in *Zoanthus* (Anthozoa: Hexacorallia)

C-5 ○添田寿子(東海大・院・海洋)・舟尾隆(東海大・海洋科学博物館)・横地洋之(東海大・海洋研究所)

伊豆半島におけるエダミドリイシ *Acropora tumida* の繁殖生態と移植試験

C-6 ○波利井 佐紀・灘岡 和夫(東工大・情報理工)・久保弘文・岩井憲司(沖縄県水試八重山支場)・林原毅(西海水研石垣) 振動流環境下でのサンゴ幼生の行動および定着

C-7 立田 穰(電中研)・若林真千子・向江奈緒(東京医薬) サンゴ礁におけるn-アルカンを用いた陸域負荷の予測手法

C-8 雪野 出(和光大・非)・○鈴木 倫太郎(駒澤大・応用地理研)・安村茂樹(WWFジャパン)・佐藤 昌憲(駒澤大・医療健康科学部)・権田 雅之(WWFジャパン) 石垣島白保サンゴ礁浅海域におけるハマサンゴの成長に及ぼす環境要因の考察

C-9 ○熊谷航・灘岡和夫・田村仁・鈴木庸彦・山本高大(東工大・情報理工) 石垣島東海岸裾礁域の Spurs&Grooves における海水流動および波動場

C-10 ○土川 仁・安部 真理子・渡辺 暢雄・宮本 育昌(コラル・ネットワーク) リーフチェック調査結果報告

C-10 花城盛三・○長嶺朝仁(沖縄総合事務局開発建設部)・田邊俊郎((財)港湾空間高度化環境研究センター)・山本秀一((株)エコー) 沖縄の港湾整備における環境保全の考え方

C-12 ○渡邊晋也(東海大・院・海洋)・迫田恵三・上野信平・(東海大・海洋)・吉居智司(MARSHALLS OCEANIC INSTITUTE) 人工付着基盤の表面特性がサンゴ付着に及ぼす影響

液晶プロジェクターを使った口頭発表に関して

- ①会場には Windows XP(または2000)とMicrosoft Powerpointをインストールしたパーソナルコンピュータを設置し、液晶プロジェクターに接続します。
- ②液晶プロジェクターを用いて発表する場合は、Windows版のPowerPointで正常に表示されることを確認したpptファイルを、USBメモリーまたはCD-R(ともにWindowsで読み込めるFormat)に保存してご持参ください。
- ③ファイル名は、講演番号(半角数字3けた:プログラム参照)に続けて筆頭演者の姓名(全角文字可)とします。Windows以外のOSで作成された場合必ず拡張子.pptを付してください。また、このファイルがWindows版のPowerPointで正常に読み出せることを確認しておいてください。
- ④発表者は、午前、午後の発表開始の30分前までに、発表会場の演壇まで上記メディアを持参し担当の者に渡してファイルのコピーを依頼し、会場のパーソナルコンピュータでスライドショーが正常に表示されることを確認してください。発表開始後はファイルを受け付けることが難しいと思いますのでご注意ください。
- ⑤不完全なファイル、ウイルス等に汚染されたファイルは受け付けませんのでご注意ください。
- ⑥自分のパーソナルコンピュータを会場の液晶プロジェクターに接続することは原則としてお断りします。

ポスター発表について

- ①Aグループの方は11月13日(土)の9:30から10:10、Bグループの方は10:10から10:50、Cグループの方は10:50から11:30の間に、各自の展示ポスターの前で質問者に説明してください。
- ②ポスター発表には幅90cm、高さ120cmのパネルを用意いたします。パネルは足(両側にパイプ)の長さが60cmありますので、最大で高さ180cmまでのポスターが貼れます。指定のパネルに各自で見やすく貼ってください。ポスターは11月12日(金)の11時から発表前までに貼ってください。また、撤去は11月13日(土)の16時30分までお願いいたします。

発表について

- 口頭発表の発表時間は質疑応答を含め20分です。15分で1鈴、17分で2鈴、20分で3鈴を鳴らします。
- 口頭発表の際には液晶プロジェクターが使用可能です。予備を含めて複数のプロジェクターを用意しますが、万一の場合に備えてOHPシートに印刷したもののご持参をお勧めします。

名誉会員 平田国雄 先生の

ご逝去のお知らせ

日本サンゴ礁学会会長 山里 清



本学会名誉会員の平田国雄先生が平成16年5月に92歳でお亡くなりになりました。時期を失っていますが、会員の皆様とともにご冥福をお祈り申し上げます。

平田先生は、鹿児島大学理学部で生物学の教授をしておられましたが、定年によりご退官なされ、名誉教授となられました。先生は、1953年に奄美大島の施政権が米国から日本に返還されると、すぐに与論島のサンゴ礁の研究に着手され、戦後の日本のサンゴ礁の地形学的、生態学的研究のさきがけとなられました。後にご研究は、奄美群島の他の島々

にも広げられましたが、ご研究の中心は、与論島でした。与論島では、バリアリーフ形成のメカニズムに挑戦され、ダーウィンの沈降説とは違うプロセスによる形成説を提唱されました。また、与論島は、全体がサンゴ礁石灰岩からなるが、その地形を詳細に調査されて、それが6段の段丘構造をとること、最上位の2段は更新世以前、下位の3段はそれぞれ第1間氷期、第2間氷期、第3間氷期、最下段は後氷期(完新世)の温暖期に形成されたサンゴ礁であるという推論されました。後に、完新世温暖期のサンゴ礁は、海進により侵食され残留部は、現生のサンゴ礁に取り込まれたらと訂正されましたが、この点は、後の研究者にも支持されましたが、上記の5~6段の段丘については、後の研究者により、更新世後期の最終氷期の産物であるという訂正されました。先生のご研究は、放射年代測定法や、ボーリング機器の使用なしでしたが、精密な高度測定や観察・検討により詳細な地形構造を描き出しておられます。先生は、またサンゴ礁の生物についても調べておられます。与論島の供利のサンゴ礁において造礁サンゴの分

布の定量的調査により、岸から礁縁まで、250mの全域にわたってサンゴが分布し、*Acropora* (81%)、*Porites* (6%)、*Pocillopora*、*Montipora* (各5%)の個体が優占していたことなどを明らかにしました。貝類相の調査結果、礁原の外側部分を *Drupa Region*、内側部分を *Conus Region*、さらに内側を *Sea Urchin Region*と呼ぶことを提唱なしました。外側礁原では、海藻密度が高く、内側礁原では砂が薄く堆積するという環境の相違に関連していると指摘しておられます。

以上平田先生のサンゴ礁研究の一端を紹介させていただきましたが、このように先生は、戦後の日本におけるサンゴ礁研究の先駆者と申し上げることができると思います。先生はこれらのご研究により、東北大学から博士の学位を授与されました。本サンゴ礁学会の名誉会員をお受けしていただき光栄に思っていました。ここにご逝去になられ、心からお悔やみ申し上げます。

連載

若手会員の



A young member's eye

東北大学大学院理学研究科地学専攻
地圏進化化学講座
博士後期課程1年 山本 和幸

みなさんこんにちは。今回は、井龍康文
助教授(専門:サンゴ礁地質学・炭酸塩堆積
学・古生物学)および山田 努助手(専門:同
位体地質学・炭酸塩地球化学)の2教官と、
16名のCOE研究員、大学院生、学部生で
構成される、井龍・山田研究室について紹
介させていただきます。

私達の研究グループは、炭酸塩岩や炭酸
塩骨格をもつ生物の研究を通して、さまざ
まな時間スケールの地球環境変動を解明す
ることを目指しており、東北大学21世紀
COEプログラム「先端地球科学技術によ
る地球の未来像創出」の一端を担っていま
す。現在重点的に研究を行っているテーマ
は、1)琉球列島の現世サンゴ礁における造
礁生物の分布とサンゴ礁生態系における物
質循環の解明、2)琉球列島とその周辺海域

における第四紀気候変動と、それに対応し
たサンゴ礁複合体堆積物の形成史の解明、
3)炭酸塩プラットフォーム堆積物および環
礁性炭酸塩堆積物から、過去数千万年間の
生物地球化学循環やさまざまな環境変動を
解読する研究、4)サンゴ・シャコガイ骨格
および洞窟堆積物を用いた、日~年単位の高
解像度古環境復元、5)海底堆積物中に含
まれる有孔虫・コケムシの炭素・酸素同位
体組成に基づく古海洋環境の復元です。こ
のように私達の研究は多岐に渡りますが、
現在、研究室として国内外の研究者と連携
して目指しているのが、統合国際深海掘削
計画(IODP)および国際陸上科学掘削計画
(ICDP)によって、琉球列島の周辺海域お
よび陸域のサンゴ礁堆積物を掘削し、第四
紀気候変動に対するサンゴ礁の応答を解明
することを目的とするプロジェクトである
、「サンゴ礁前線の移動に基づく氷期・
間氷期の環境変動解析」です。また、来年
2005年の夏には、国際深海掘削史上初の
サンゴ礁掘削が南太平洋のタヒチで行われ
ます。本掘削は、熱帯浅海域における過去
2万年間の海水準変動や海洋環境の変遷を
解明することを目的としており、井龍先生
が共同主席研究者として主導的役割を果た
されます。

このような研究に日夜いそしんでいる私
達ですが、研究室内で一番元気で目立って

いるのはやはり井龍先生です。先生を一言
で表現すると、兄貴(自称)・親父(他称)、
薩摩男児、浪花節の人生観、といった感じ
でしょうか。私もそうでしたが、研究室に
入ったばかりの新入生などは、先生の元気
のいい言動に圧倒されてモジモジしていま
すが、先生の寒いギャグにも笑顔で対応
できるようになれば一人前と認められま
す。また、先生の睡眠時間はナポレオン並
です。一緒にフィールドワークに出掛ける
と、たいてい酒宴とお気に入りのテレビ番
組(冬のソナタなど)で深夜まで盛り上が
ったと思いきや、早朝から学生が寝ている横
でパソコンで仕事をされるので安眠は不可
能です。一方、山田先生は井龍先生とは全
く対照的で、クールで冷静沈着であり、寒
いギャグなど一切口にされません。井龍・
山田研究室は、このように対照的なお二人
の先生でうまく釣り合いがとれた研究室で
す。ちなみに私はその中で、腕足動物とい
う生物の殻の同位体組成が、どの程度生息
地の海洋環境を反映するのかを調べ、化石
個体を用いた古環境復元に応用するための
基礎研究を行っています。

最後になりましたが、私達の研究に興
味・関心を持って下さった方は、研究室の
ホームページ(http://www.dges.tohoku.ac.jp/igps/irryu_e.html)を是非御覧下
さい。よろしく願いたします。

編集
後記

Edit postscript

秋になり、日本サンゴ礁学会大会の時期がやってきました。
今年度は国際サンゴ礁学会が開催されたにもかかわらず、多
数の発表・参加申し込みがあったようです。

今後も、日本サンゴ礁学会のますますの発展に期待できそうですね!

編集担当 波利井(東工大)

JCRS
Japanese Coral Reef Society
2004年10月21日発行

日本サンゴ礁学会ニュースレター
Newsletter of Japanese Coral Reef Society
No.23 [2004 / 2005 No.2]

●編集・発行人/山野・波利井・中井・杉原・木村・梅澤・野崎 ●発行所/日本サンゴ礁学会
●事務局/茅根 創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院
理学系研究科 地球惑星科学専攻 Fax:03-3814-6358

海洋 生物

学際的な専門知見を提供する 生物学研究者のための隔月刊誌

毎号特集によるテーマの掘り下げと連載での体系的
な解説で、分類・生態・環境科学分野の研究を紹介

B5判・年6回(隔月刊)

定価:1,680円+160円(1号分)

前納予約購読料:9,840円送料小社負担

153号(2004年8月号)

特集「アマモ場造成と生物多様性の保全」

相生 啓子 アマモ場造成と環境保全機能

田中 義幸 環境要因に対する熱帯性海草の適応戦略

玉置 仁・新井 章吾

生物の謂集効果に及ぼすアマモ場の群落構造の影響

加藤 由実子・颯田 葉子

phyA 遺伝子の塩基配列に基づくアマモの集団遺伝学的解析
—日本沿岸域の海草の多様性と起源に関する考察

森田 健二 アマモ場造成の実践からみた生物多様性の保全とアマモ場成
立条件の検証

好評連載 日本産エビ類の分類と生態/日本産コンブ類の分類と分布/内湾および干潟における物質循環と生物生
産/イセエビの生活史/汽水産多細胞藻類の分類と形態/マダいの生物学/クラゲ類の生物・生態学 など



株式会社 生物研究社

〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪501号

TEL: 03-3445-6587 FAX: 03-3445-6947

E-mail: aquabiol@kiwi.ne.jp <http://aquabiology.m78.com>